

上條小学校3号館耐震補強に係る報道について

この度は、上條小学校3号館耐震補強の件がテレビや新聞で報道され、皆様方大変ご心配をおかけし、深くお詫び申し上げます。この件に関しましては、すでに第三者委員会を開催し、その報告書を踏まえ、保護者を含めた学校関係者及び市議会にはご説明しておりますが、改めて皆様に教育委員会の見解をお伝えいたします。

- 1 「予算を年度内に消化するため、業務遂行を最優先させた」と報じられましたが、建て替えした場合、完成までに3～4年かかることから、子どもの安全を速やかに確保するために耐震補強工事を実施したもので、決して予算を消化するために工事をした訳ではありません。
- 2 「耐震補強できないものを耐震補強した」と報じられましたが、第三者委員会の報告書によれば、今回の耐震設計は「コンクリート強度が低いことに十分配慮した補強設計を行い、安全率を十分に確保する補強方針・補強計画を立てている」としていません。つまりコンクリート強度は公的基準より低いものの、確かに耐震性能は向上しており、耐震補強できないものを耐震補強した訳ではありません。
- 3 「3,000万円の無駄金を使った」と報じられましたが、前述のとおり、確かに耐震性能は向上しており、第三者委員会委員長(大学教授、JSCA 建築構造士)は「3,000万円の補強は、6年間の安全確保に寄与していた」と述べています。また、この間、東北、鳥取、熊本などで大地震が発生しており、3,000万円は無駄金だったとは考えておりません。

今回の件につきましては、教育委員会では、耐震補強実施の判断を十分な協議がなされずに決定したことが最大の問題であると考えており、その経緯、原因等を真摯に受けとめ、再発防止に努めてまいります。また、今後は校舎の建て替えなどを含め、教育施設全体のグランドデザインを検討してまいります。

なお、詳細な本事案の経過・対応等は「上條小学校3号館耐震補強設計に係る第三者委員会報告書」(市ホームページ公開中)をご参照いただきますようお願いいたします。

また、この度の一部報道に対しましては抗議をいたしております。

【経過】

